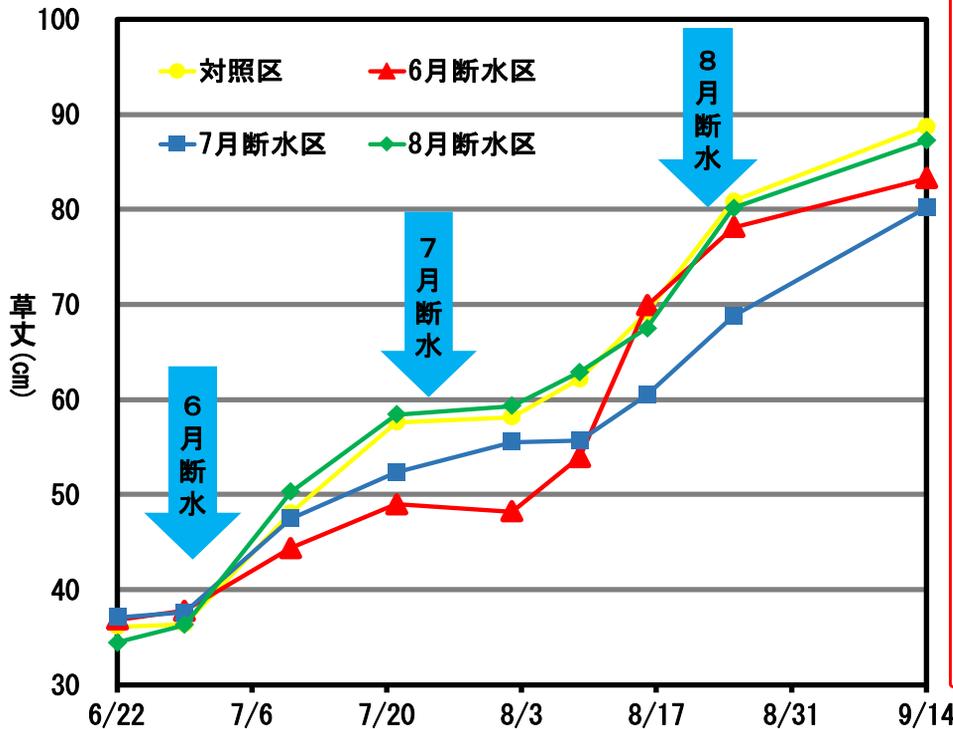


サトイモが水分ストレスを受ける時期の違いがその後の生育に及ぼす影響

農林水産研究所

サトイモ（愛媛農試V2号）をハウス内でコンテナ栽培し、上から3枚目の葉が5～10%黄変するまで断水を行ったところ、6月断水区の子茎数と収量が最も減少しました。



第1図 水分ストレスの時期がその後の生育に及ぼす影響

- ①水分ストレスがかかると、草丈の伸びが鈍化。
- ②その後、水分が十分にある状態を維持すると、草丈は、ある程度回復。
- ③8月断水区では、草丈への影響は少。

第1表 水分ストレスの時期が1株当たりの子茎発生数と収量に及ぼす影響

試験区	子茎発生数			親芋	子芋		孫芋		子芋+孫芋
	6/29	7/21	8/25	重量 (g)	数 (個)	重量 (g)	数 (個)	重量 (g)	重量 (g)
対照区	0.6	4.4	11.0	288	10.6	613	42	1,628	2,240
6月断水区	0.8	3.8	5.8	252	10.2	480	36	1,200	1,680
7月断水区	1.8	3.6	9.0	245	11.6	532	43	1,445	1,977
8月断水区	1.6	3.4	10.4	310	9.4	536	42	1,648	2,184

- ④6月断水区では、子茎の発生数が少なくなった。
- ⑤収量は対照区、8月断水区、7月断水区、6月断水区の順になった。

草丈は、ある程度回復しても、収量は減少する。

生育期間を通して水分ストレスを与えない管理が重要。